
海。

りの。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
海。

【Nコード】
N6296Z

【作者名】
りの。

【あらすじ】
水平線と向き合いながら彼は少しくすんだ白いベンチに座って、本を読んでいた。少し寒そうに、服の襟をつまみました。

一言言わせてもらおうと、現実がいやだ。しんどい。

僕はテスト期間や、レポート提出が近づくと、きまって心臓の鼓動が速くなるんだ。

そして、勉強時間が過ぎても、心臓がどくどくいつているんだ。

僕は小説の事を考える。

そうしながら、テレビを見る。

その時の思考はぼんやりとした流れの中にいる。

なにも考えられない。

ここでなにかを考えなくちゃと思うようであればそれはだいぶやばい。

経験的にね。

いまは大丈夫。

結局、なにが言いたいかっていうと、不安なんだと思う。

全てが、不安なんだと思う。

突然、不安になる。

ずっとよくならない。

もう疲れた。

今年もまたこうなるのかもしれない。

なんとかしなくちゃいけない。

いままで、というか、最近から最近まではずっとこうだった。

習慣をつける。毎日が習慣だ。慣性の法則で行動しろ。

ごわっとくるんだ。

不安やなんかがね。

急に。

もう疲れた。

僕は誰もいない無人島でゆっくりしたい。

文章なんて書きたくない。

でもそのいっぽうで乱交もしたい。
それが僕です。

その二つの間にもなにかゴミやそれと区別をつくことができな
い現実が挟まれているけれど、僕はそれしか見えないし、それしか見
えない。

僕は長い文章が書けない。

それは低俗だからだ。

それは低能だからだ。

けれど僕は低能で低俗で馬鹿でインチキが嫌いだ。

インチキはどうかはわからないけれど、

とにかく嫌々がすべて自分に跳ね返ってくるんだ。

とにかく僕は一行に一文章しかかけない。

「誠実に自分の気持ち吐露した」歌詞が僕は嫌いだった。

馬鹿のやる、何の頭も使わない原始的でなんの頭の1パーセントも
使っていないような馬鹿がただ適当に書いただけなんだと
思っていたし、いまも少しはそう思うんだけど、それは、とても難しく、それ
に複雑な過程への第一歩なんじゃないかとも思ったりもする。

僕が嫌いで絶えず批判し蔑んできたものがただただ正しくなっ
ていく。

ただ唯一成功したのは受験の時だけだ。

自分が正しいと、他人がなにをしようとも自分が正しいと思
うことをしてきた。

いや、この言い方は少し違って、間違っていると直感が囁
いていても間違った事がこの期間だけは正しいと信じてきた
ことをしてきた。

これは小説ではない。

でも馬鹿が馬鹿で醜い歌詞を頭の1パーセントも使わずに
書くように、僕にとってこの作業は必要な事なんだと思
うし、そう思いたい。言い忘れたけれど、僕は長い文章
が書けない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6296z/>

海。

2011年12月21日00時47分発行